

令和3年度 第4回舞鶴市図書館協議会 記録(抄録)

日時：令和4年1月17日(月)

午後1時30分～4時20分

会場：舞鶴市立西図書館研修室

<議事>

- (1) 開会
- (2) 図書館基本計画策定準備部会 議事  
前回土産資料 説明  
準備部会議題④ 全国の同規模自治体の図書館政策とサービス(ふたたび)  
準備部会議題⑤ 舞鶴市の図書館と類縁施設を知る  
準備部会議題⑥ 舞鶴市の地域拠点と支援施策を知る  
今回土産資料 説明

<会議録>

- (1) 開会 (13時30分)

★会長 挨拶

- (2) 図書館基本計画策定準備部会 議事

前回土産資料 説明

準備部会議題④ 全国の同規模自治体の図書館政策とサービス(ふたたび)

\*質問、意見は以下のとおり

★会長

- ・ 財政状況があまり良くなくても、図書館政策に予算を割り当てて成果を上げている自治体がある、ということがこの資料でわかる。
- ・ 舞鶴市の資料費が2019年度で693万円というのは、図書館として維持するのに低予算の限界を超えているように思われる。

★副会長

- ・ 福知山市などはがんばって図書館に予算を割いていて、貸出等の利用も高い。舞鶴市は財政状況は良い方だが資料費が少なく、サービスの充実度も低調である。サービスの充実度を確認するうえで相関性が高いのは資料費であり、その結果がよくわかる。

準備部会議題⑤ 舞鶴市の図書館と類縁施設を知る

準備部会議題⑥ 舞鶴市の地域拠点と支援施策を知る

\* 質問、意見は以下のとおり

#### ★委員

- ・ 京都府の取り組み「みんなでめざそう 100 万冊」が 10 年以上前で、福知山市立図書館はそのころから学校支援を重点的に行い、府立図書館との連携にも取り組んでいた。
- ・ 舞鶴市の学校図書館は学校司書がない。司書教諭はいるが専任ではない。読み聞かせや図書の整備などは、東図書館、西図書館のボランティア養成講座で育成されたボランティアに支えられてきた。
- ・ 学校図書館や類縁施設の訪問記録は、これまでの確認ができて、舞鶴市の図書館がどう進むかを考えるための良い資料だと感じた。

#### ★委員

- ・ ⑥-1 市域全体の地域拠点を確かめる という資料について、自動車図書館のサービスポイントの例として高齢者のデイサービス施設は挙げられているが、発達支援放課後デイサービスなどの子どもを対象としたデイサービスもある。放課後に行く施設なので普段は行かなくてよいが、長期休みには回る検討するとよいのではないかと。認可外の保育施設もあるので加えてはどうか。前回も言ったが支援学校なども弱い立場の方にサービスを届けるということで、余力があれば加えられればと思う。

#### ★委員

- ・ 舞鶴市全体をカバーしてサービスをしていく提案について、本館・分館・自動車図書館がうまく循環して機能すればと良いと思う。
- ・ 公民館に付随した分館でも現状では親子の利用などがある。分館や自動車図書館でどれだけ本館と連携した専門性のある資料の動きができるか、私のなかではイメージできない。
- ・ 専門性を求めると本館に出かける必要があり利用が集中するのか、周辺地域では分館は読書室化して、ある本だけを読むようになるのか。そう考えるといままでとあまり変わらない。図書の循環ということではもう少し深く考えるべきか、と感じた。

#### ★会長

- ・ 分館にレファレンス機能などが必要では、という意見かと思うが、現状分析の段階では言及するに至っていない。計画編の議論で検討したい。
- ・ 分館の資料はただ置いてあるだけでなく、サービス全体に繋いでいく必要があると考え

るが、いかがか。

#### ☆ 事務局（計画同人）

- ・ 現状、分館の資料は棚の三分の一くらいが書庫化していて、資料が利用されていないように見受けられる。動かないものは本館書庫に引き上げて、利用が多い資料に入れ替える工夫をしたい。分館の配架は本館の縮小コピーのようなものではなく、地域の利用に特化した資料を配置することが効果的かと考える。
- ・ 分館に配置可能なのは一万冊程度だが、BM(自動車図書館)のサービスポイントとして併用すれば、BMには一度に3～4千冊積めて配本車も一緒に移動するとさらに700冊程度持っていくことができる。十分に新鮮な資料が身近に届くし、資料の入れ替えもできる。
- ・ 類縁施設の訪問ヒアリングをした感想として、大浦会館などは分館となっていないが、地域の人が集まる施設が集中するようなポイントは分館に格上げすることも検討してはどうかと感じた。

#### ★ 副会長

- ・ 分館の有用性について一般に議論されるのは配架冊数だが、問題は内容の陳腐化である。分館の配架冊数が4～5万冊あっても資料が置きっぱなしだと利用は落ちる。行くたびに資料が入れ替わっていると、魅力が維持できる。BMで本が少なくても借りたくなるのは担当者が常に資料を入れ替えているからで、一冊一冊は軽くても大変な作業である。
- ・ 出版点数のカバー率が高いと資料の魅力が上がるが、以前より出版点数が多くなっていることもあり、配架冊数が少ないと魅力が少なく感じるようになる。小さい分館でも資料を入れ替えるエネルギーが必要になる。

#### ★ 会長

- ・ 地域の利用者のニーズがとらえられるか、社会調査論の素養が必要になってきていて、司書にはそういった能力があるのだが、社会教育士(社会教育主事)などの協力も必要かもしれない。図書館の力だけではニーズの把握が困難になっているように思う。
- ・ 要求課題のみならず、必要課題に応じた選書も大切になっていくのではないか。

#### ★ 副会長

- ・ BMの運営はサービスポイントに合わせて資料を入れ替えることが必要で、それが大変。BM担当者は常連利用者の顔を思い浮かべて入れ替えを行っている。
- ・ 分館もある程度の規模であれば、幅をもたせた配架ができるが、小さな分館もBM同様のきめ細かな配架が求められる。図書館の運営の難しさを理解していただきたいと思う。

## ★ 委員

- ・ 私は図書館の講習を受けて朗読ボランティアの登録を行ったが、ボランティアの要望があったのは3つの小学校しかなかった。BMを巡回してほしいと手が挙がる施設はどれだけあるだろうか。南相馬市の事例を紹介されたが、市民から立ち上がった運動なので利用への関心が高いように思う。この会議で話ししているだけでなく、こういったサービスがある、と広めていくことが大切かと思う。
- ・ 他市にあるようなワンコインバスが市内をめぐるとうれしいが、舞鶴市ではうまく運行できずバス会社が路線から撤退している。他市ではどのように運行しているのか、行政の補助などが入っているのか知りたい。

## ☆ 事務局（計画同人）

- ・ 市内循環のワンコインバスは浦安市、茅ヶ崎市、横浜市その他多数の自治体で100円～200円の事例がある。行政サービスの効率を上げるために交通政策をセットで考える必要があるか考える。

## ★ 副会長

- ・ バスの運行の課題は、ほとんどが人件費だろう。横須賀市では自治体が物流にドローンを使う実験が始まっているし、無人の自動運転バスの運用も目になってきている。あまり心配はないのではないか。縦割りで人や物の循環を考えるのではなく、図書館や公共施設を回るバスに様々な配送物を載せる工夫も考えられるし、そうすると全体のコストが下がっていくのではないかな。
- ・ アメリカでは交通量を減らすために車の相乗りをボランティアで行うという事例が古くからある。保険などは行政で補助しているようだが。
- ・ 交通体系については、自治体によって状況が異なるので明確な答えはない。例えば配達ボランティアをやっていることが誇れるようなイメージづくりや雰囲気醸成も大切だろう。

## ★ 会長

- ・ 交通体系について、舞鶴市全体で共同研究会など行って話し合う時期が来ているのではないかな。

## ☆ 事務局（計画同人）

- ・ 令和3年に市から「舞鶴市交通計画」という調査が出ていて、議事資料でも度々引用している。公共交通の問題が整理されていて、今後はどのように施策に活かすかが待たれ

るという段階のようだ。

★ 会長

- ・ 市内交通の充実と、本館や分館の移動に加え配本サービスも載せられるように、計画編では言及していきたい。

★ 委員

- ・ ⑥-1 市域全体の地域拠点を確認する という資料について、身体障がい者の放課後デイサービスや身体障害者福祉センターなどもあるので、BMサービスポイントの検討にのせたい。

★ 会長

- ・ 社会的弱者が網から漏れないように、という視点で資料に追記をしていただきたい。例えば外国人や低所得者、社会的関係が希薄な人(単身者や移住して日が浅い人など)にとっても図書館は重要な施設である。そういった記述を忘れないようにしたい。

★ 委員

- ・ 具体的に図書館につながりがあるかはわからないが、子どもの貧困や子ども食堂といった問題も含まれるかと思う。

★ 会長

- ・ 鎌倉市の図書館が「学校に行きたくなかったら図書館へ」と表明して話題になっていた。対応する職員の体制が必要かもしれない。人間関係や病気などの悩みも、図書館は資料で応援できる。

★ 副会長

- ・ 数十年前になるがアメリカの図書館のポスターで、ピストルを頭に当てた人の絵に「そのまえに図書館へ」という文章が添えられていた。自殺するような悩みがある人は図書館へ、といったことを上手に表現したもの。図書館は、お金があつて暇がある人の施設ではなく、社会的弱者が必要に迫られて利用する施設であると。そういうアピールも必要ではないか。

★ 会長

- ・ ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の視点が大切。交通弱者のためにBMや分館がある。それでも届かない利用者にはメールサービスも必要になる。基本計画は「中央

に大きな図書館を作ればそれでいい」ということでまとめないようにしたい。サービスの構造的なことに切り込むべきかと思う。

#### ★ 委員

- ・ 学校図書館について、学校司書の配置が大切ではないかと思う。専任の方がいると展示や図書整理のなど図書室そのものが充実し、子どもの読書推進に効果がある。
- ・ 中央図書館と学校のかかわり、連携が大切だと感じた。
- ・ 赤ちゃんから本の大切さを広めたい。スマホ画面ではなく印刷された活字で読むことは頭の発達にも大切なのではないか。子どもへの支援を大切にしたい。
- ・ BMについて、地域にあった資料を搭載することが大切なのだと思う。サービスポイントに行っても誰も借りに来ない、などということがないようにしたい。
- ・ 他市と比較して舞鶴市の図書館に割く予算は少ない。資料費が全てではないかもしれないが、いまから図書館がやろうとしていることが実現できるように、市は力を入れるよう見直してもらいたい。

#### ★ 副会長

- ・ デイサービス施設などは利用対象者のみを考えてサービスをすれば評価されるが、図書館はあらゆる人がサービス対象となる。非常に難しい運営をしている施設である。
- ・ さらに図書館は縄張りを超えて他の施設に入っていく「図書館が関われば、サービスをより良くします」と言わなければ、かえって仕事を増やすと迷惑がられることもある。
- ・ 学校図書館の本来の目的は学力の向上にあるはずだが、指導要領にも明文化されていない。目的が明らかにされていないので公共図書館のミニ版のようになってしまう。読み物をそろえるのではなく、教科学習を支えるように資料を整えるべきであるが十分にそろえるのは難しいので、公共図書館で支えるというのが望ましいかたちである。
- ・ デイサービス施設にBMが出かけていくなら、サービスが向上するように資料でサポートしなければならない。施設ごとに欲しがらる資料は違うので、施設の担当者と図書館員が相談して資料をそろえて行く必要がある。
- ・ こうしたアウトリーチに対応する人員を図書館に確保できるか。社会教育士などと手を組んで地域の問題に取り組むようになっていくかもしれない。
- ・ 暇がないから近くにないと図書館に行かない、分館やBMが必要という議論になりがちであるが、資料が揃っていて魅力のある中央図書館には、仕事をしている人がそれぞれの業績向上のヒントや仕事の課題解決を求めて来るようになる。仕事や生活に関わる問題を抱えて、必要に迫られると図書館に行くことの優先順位が上がる。
- ・ 魅力のある中央図書館には、遠方からでも交通手段を駆使して利用者が来る。集客力が強くなる。それでも中央図書館へ行くことが出来ない人をどうサポートするか、という

ふうに変えたい。

#### ★ 会長

- ・ 地域の課題や職業分布、必要条件をよく考えて図書館サービスを配置するべきである。
- ・ 貸出冊数というものは一方で悪魔の指標という側面もある。貸出冊数を稼ぐなら漫画やCD、DVD、ベストセラー本を貸せば良いが、動きの良い流行ものは陳腐化も早い。
- ・ 必要課題を選別・調査しなければならない。各公共施設、商工会などと話し合えるか、司書が担うことができるか。司書に負担がかかりすぎるようであれば、民間の社会教育士などとも連携するしくみがあれば良いと思う。
- ・ 学校図書館は、学校司書がいると公共図書館との連携をとりやすい。副会長が言われたように「学力向上の支援」をはっきり打ち出しても良いのではないかと。

#### ★ 副会長

- ・ 学校司書の重要な役割には、教員の支援もある。授業に必要な副読本など先生自身で探すことも多いが、先生は新しい教育についても勉強しなくてはならない。学校司書はそういうサポートもする。そして学校司書を支えるのは中央図書館の役割である。

#### ★ 委員

- ・ 学校図書館は予算がないので読み物ばかりになるのが現状。学習内容によって必要となる最新の資料がないので、公共図書館に頼ることになる。
- ・ 新しいハコができて、そこを繋ぐ人が重要かと思う。学校であれば図書館教育部会の先生などと備えるべき資料のあり方を話し合うことができれば良いのではと思う。
- ・ 司書の負担が増えるということであれば、定年した方など専門性をもって社会貢献できる人材を集めるような事例はないだろうか。

#### ★ 会長

- ・ 豊中市では、子どもに読み聞かせをする読書会のグループにボランティアとしてブックスタートを応援してもらうなどということをやっていた。そうした関わりから学校のサポートをお願いできないか、という発展になっている。パートではあるが司書資格を持っている方を集めて、学校司書の全校配置に近づいている。
- ・ 司書資格を持つ民間人を集めて図書館のサポートグループをつくるなど考えてはどうか。司書としてトレーニングを積む必要はあるが。なにもかも公共図書館にまかせるというのは負担が重すぎる。市民の側もコーディネート人材を持つべきだし、両方があって気運が高まるのではないかと。
- ・ 他市のがんばっている図書館には、サポートをするような市民グループもついている。

#### ☆ 事務局（計画同人）

- ・ 大阪府熊取町では、平成6年まで公共図書館から学校図書館に司書を派遣していた。派遣される職員は、ある年は学校ある年は公共図書館というふうにローテーションでどちらも経験することで、それぞれの環境で必要とされるスキルや業務を学び、鍛えられていたと聞いている。

#### ★会長

- ・ 皆さんから出た意見を上手にまとめていただきたい。基本計画には社会をより良くするための施設だということ、障がい者・子ども・地域・学校などに図書館の果たす能動的役割を明確に書いていきたい。
- ・ 暇がない人のための図書館、お金がない人のための図書館、健康に困っている人のための図書館、家族がいなくて困っている人のための図書館、社会関係に乏しい人のための図書館、学校に行くのが嫌な子のための図書館、様々な社会的少数者をバックアップする機能を強調するよう記述をしていきたい。
- ・ 日本全国で地域のコミュニティが崩壊に向かっている。高齢化・人口減少で地域の互助システムが無くなってきている。これに図書館は危機感を持って、地域の問題に調査能力を発揮するべきだろう。社会調査能力をもった能動的な司書がいてほしい。
- ・ コーディネート機能、調査機能を行政サイドに要求してばかりいないで、市民側も人財をうまく活用すべきだと思う。市民プロデューサーが生まれないか。
- ・ 教養主義の生涯学習講座などに予算を使っていないか、文化政策としても考えたい。

#### ★委員

- ・ 昨年4月から舞鶴市でもタブレット教育が始まっているようだが、身に付くものなのか。いまの子ども達は漢字を辞典で調べることなどないのか。印刷されたものを見た方が教育として効果があるのではないか。タブレット教育を否定するわけではないが、疑問がある。図書との関わりはどうなっていくのかと思っている。

#### ★副会長

- ・ 現在のところ結論は出ていないようだ。ある程度の基本的学習能力が身に付くまでは紙資料が良いのではないかとされている程度でまだ解っていない。壮大な実験が始まっている状態。
- ・ 今ある技術は使いこなす必要があるため、そのトレーニングという側面もある。タブレットの前は、キーボードを使う授業があったが入力方法は変わっていくので意味はなくなってきた。

- ・情報リテラシー能力が身に付くかが問題となっている。Google 検索上位20位は広告と言われていて、信頼できる情報が見極めるのは難しく、一般市民の9割は信頼できる論文などのデータを探ることができないと言われている。どんなにインターネットが発達しても、専門的な調査は司書が行うことになるだろう。

#### ★会長

- ・情報にはアクセスしやすいが、意味情報としても切り取られた情報しか出てこないし、ジャーナルに行き着いてもフェイクニュースではないかという心配もある。情報を見極める教育をしなければならない。フィンランドなどではそういった教育を行っている。

#### ★委員

- ・学校では辞書の使いかたも教えている。タブレットを使った授業では、説明的文章を見るときに、情報は作った人の意図があり見せ方も意図があるので、それを丸呑みにしてはいけない、といった分析や内容上の価値判断を合わせたリテラシー教育を計画的に行っている。
- ・タブレット教育よりも怖いのは、親が携帯ばかり見ていて赤ちゃんの顔を見ていないことや、参観日に教室に来ていてもずっと携帯を見ている、といったことが散見されること。
- ・子どもよりも親の教育となると、高校生くらいから情報とのつきあい方を学ぶ必要があるかもしれない。

### 今回土産資料 説明

#### ★会長

- ・『図書館のめざすもの』という書籍の紹介があった。「アメリカ社会に役立つ図書館の十二箇条」の訳文で「7. 図書館は大きな見返りを提供します」「5. 図書館は創造性を育てます」「3. 図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします」「2. 図書館は社会の壁を打ち破ります」などという項目は、計画編でも強調しておきたい。

#### ★副会長

- ・SDGs 未来都市に選定された舞鶴市の地域課題に、図書館は解決のヒントを提供することができる。計画編では、舞鶴市の行政課題と図書館の関わりを書いていくと「舞鶴市の図書館のめざすもの」になるのではないかと。(行政課題と市民のニーズが一致しているという前提はあるが)

### ★会長

- ・ 計画編で書いていきたいこととして、図書館は行政課題に太刀打ちできると言い切りたい。そのために図書館はあり、今後は行政も大いに図書館を活用してもらいたい。
- ・ 乳幼児に対する図書館の支援は大切。いずれ子どもは自ら図書館に足を運ぶようになる。
- ・ 小中学校の支援、発達障害や障がい者の支援、加佐地区・大浦地区のバックアップ、世代別のバックアップについて記述をお願いしたい。ソーシャルインクルージョン、SDGsの視点も大切である。

### ★副会長

- ・ 京都府北部地域連携都市圏5市2町の中心的図書館として、舞鶴市図書館が機能することを目指したい。
- ・ 専門施設には、図書館はなにができるのかがイメージしづらいと思う。専門施設はそれぞれの背負っている法律や業界の中の縦割り情報のみで仕事をしているが、従来の情報だけではやっていけないようになってきている。図書館は横ぐしの、水平方向の情報を提供して支援をしたい。
- ・ 図書館が企業の困りごとを調査すると、専門家でも知らないような広域な範囲から情報を集めることができる。図書館の持っている可能性はこんなことがある、として計画をつくるべき。アメリカなどに前例があるので出来ないことはないだろう。実際にサービスとしてやるかは行政のやる気の問題かと思う。

### ★会長

- ・ 社会をより良くする図書館をめざしたい。ご協力をお願いします。